

新保育期に當りて

△各組に對する保育上の方針と

△新入園兒に對する種々の經驗

われは又茲に新保育期を迎へると共に、いろいろの問題に遭遇します。その中でも是非はつきり考へて置かなければならぬ問題、事實目の前につかつて來る問題として、左の二つの問ひを諸幼稚園にお尋ねして、お互の有益な參考にし度ひと思ひました。お忙がしい處を斯くいろいろとお答へ下さつた各幼稚園の方々に厚くお禮を申し上げると共に、お互も銘々によく考へ度いと思ひます。

(第一)年少、年長、各の組に對して、保育の計畫及實施上それら如何なる區別を立てらる、や。

(第二)新入園兒に關する御經驗のいろいろ。

第一

當園では常にとすれば都會生活の弊として、浮薄な觀念の培はれ易いのを防ぎたい爲に、幼兒に對して、眞面目であれ、元氣であれ、忍耐づよくあれ、といふ事を申して居ります、それは其年齢により其要求する程度こそ異ります、どの組

横濱 横濱小學校附屬幼稚園

に向つても、かくありたいと考へて居ります、さうば實際上如何なる風にして居るかと申しますと當園では最年長の組二組と中の組と最幼年の組とを合併した一組とを持つて居ります、これは別に意味ありてではなく、單に設備の上からやむなく斯様にしたもので御座いますが、幸にして只今ま

での所では多少保姆の手腕は要しますが却て好結果を得て居る様に存せられます。

最幼年の組の幼兒に對しては充分に遊戯能力を擴張させたい即ち出來得るだけ四圍を整理し、美しき空氣の内に何等顧慮する所なく、充分に其活動力を満足させてやりたいといふ希望を持つて居ります。

これはどの組に對しても持つて居る考へではあります、特に最幼年の組に向ては此考へを深くいたします、それ故御部屋も一番奇麗に裝飾してやりたい、保姆も可成やわらかに接してやりたい、そしてふうわりとした美しき環象の暗示と純なる模倣性と相俟て善良なる習慣の基礎と物に憶せぬ進取の氣象とを養ひたいと想ひますが要するに此組は養護といふ方を主とする様な傾となつて居ります。

中の組に對しては、單に養護といふ方面ばかりでなく訓練的方面へと進ませて參りますが、此組

に於ては出來得るだけ自己を充分に發展させ得る遊戯へと導きたい、そして組の成立の上から年少者を勞ると云ふ事を常に心掛けさせて居ります結果として食事の際とか、共同遊戯の際などに家族的な優しい感情を養ひますのに誠に都合よくいつて居ります。

又此時期に成るべく正しき語句を語り得る様、時に應じて其矯正につとめます。

次には自治の習慣で御座います。此組の時代から幼兒に出來る事は皆自分でさせる様に仕向けます、例へば玩具の整頓、辨當の持ち運び、羽織の紐を結ぶなどは保姆の手をわづらはさぬ様にさせます。

次には努力心の養成で御座います、幼兒は常に周圍から勞はられ過ぎます結果、ともすれば努力心がにぶり勝となりますので、之を除き何事も仕てのけるといふ元氣と勞働を楽しむ習慣とをつきたいと存じまして幾分勞作的の遊びへと導きま

す、砂場に於て共同的に大きな規模のものを作つて遊ぶとか、組中こそつて砂場の掃除をして遊びます。砂場用の大小の篩で、石や葉などのまぢつたのを除くもの、一生懸命に砂を篩にはこぶ者、それは元氣によくいたします。美しくふるはれた砂をながめながら「明日もしませう」などと申て喜んで居ります。

最年長の組の者には、最幼年の組、中の組に於て申しました事を、一層其範圍を押しひろめ、深みあるものといたさせます外、前に申述べました眞面目といふ事を第一に置いて保育いたして居ります。

次には注意力、忍耐力の増進を計ります爲めの遊びをゑらびます、例へば我慢くらべ（一分より次第に五分間位まで延して沈黙と正しき姿勢を守らせます）右左のあそび、時計のあそび、色輪のあそびの様な類で御座いますが、此等は單に注意や忍耐力の増進ばかりでなく、沈着とか敏捷とかいふ方面をも養ふ事が出来ると存じますし、一方

此時代の幼児の必然の要求とも申すべき智識欲に對しても幾分の満足を與へることが出来まして幼児も大層喜んでいたします。

又以上の遊戯を與へますと同時に多少鍛練的にも申ませうか、少しく規律たちし模倣體操のやうなもの又は競走遊戯などをまじへますし、又意志の發表にもならさせます。

此外細い事を申ましたなら限りも無い事で御座いませうが、要するに最幼年の組は養護を主とし、中の組は之にやゝ積極的に訓練的色彩を添へて参ります、最年長の組は積極的に眞面目なれ、忍耐強くあれ、元氣であれと願ひつゝ、保育を進めて行きます。

第 二

新入園兒に關する經驗と申しても、經驗の少い身には御參考になる様な事も御座いませんが、一二氣付きましたこと、又當園で致してをる事の片端を申上げようと存じます。

幼児が始めて家庭を離れて幼稚園生活に入る時の心持は可なり複雑なものであらうと思ひます、よし幼児の氣質により差違がありますにせよ、境遇の變化に伴ふ當然の刺戟は免れ得ないものであります、其處に幼稚園教育の目的が存して居るにしても、充分の心持を考へてやらなければなりません、そして温かなる保姆の同情心と理解とにより、家庭から幼稚園へ滑かに進ませて第一幼児を安心させ、幼稚園を愉快な居心地のよい處とさせなければならぬと存じます。

かくて入園當初の緊張した心地をのんびりとさせ自然と幼児をして其天真を保姆の前にあらはさせる様にさせて居ります、此爲に新入園児のため園に馴れて居る者の内から適當した友達を見出してやる様にし又一方幼児に適當した遊びを與へてやります。

見出してやり、與へてやります爲には幼児の過去の生活と幼児の環象とを明かにしなければなり

ませんので、當園では入園と同時に幼児の身體及精神の狀態、家庭の狀況とを調査することにして居ります、これは大體の項目を定めてある用紙のそれ／＼の欄に記入してもらふ事にはして御座いますが充分なことが判りませんので、入園の當初には父兄に是非來てもらひまして懇談をすることにして居ります、これは入園の初めといふものは、家庭の人も緊張した教育的の心をもつて居りますから此時をはずさず打とけた談話の内に充分に家庭の人に幼稚園といふ者を理解してもらひます。

是は餘程効果のある事の様に見えます、然し身體や精神の狀態を聞きましますにしても、正面からでは單なる答のみで御座いますので、側面よりとでも申ませうか、睡眠狀態、食物の好惡、遊戯の種類、交友狀態といふ方面から段々と聞いて参りますと其性質の原因する所なども明かになつて來る様に想はれますし、家庭の者もはなし易い様に推せられます。

かくして第一歩として新入兒を安心させ其天真を充分に現はさせ、第二歩として家庭の人の心を

促へてしまひます、此二つが出来ましたならば保育の半は達せられたと申してもよいかと存まじす。

第一の御問ひに對して

當園では四年以下の子供は募集せざる故滿四年より五年迄の組と滿五年より六年迄の組との二種なり。

(1)、體育的方面に就きては概括的にして、年長、年少何れも大差なし、唯子供の發育状態によりて各遊戲の時間、活力の強弱に注意をなす事等にして凡ての玩具は自由に與ふれど、彼等は自ら相應せるを遊ぶ、即ち繩飛びの如きも年少組はさまで歓迎せざるも一の組の女兒は頗る得意に遊び居るなり。

(2)、訓育的方面の躰も各組同一要目にして、要點

京都 生祥幼稚園

は朝會の時、全般に語り聽かせ、それを更に各組相應に具體的に申きかす事とし、他は個人的に其人其時に應じてなす、一般的に云へば年長組は年少組に比して其實行力に就きての保姆の監督を深くす。

(3)、其他の遊戲は幼兒の能力の發育程度に準じて其豫定を定むる事左の如し。

滿四年より滿五年迄の一ヶ年間

(談話) 1、昔話、2、繪本の説明、3、偶話、4、自然界の現象に就きて。

(唱歌) 1、年長組の歌ふ唱歌を聽覺へて誤まれ
るを訂正す、2、簡易の事物に就きて教ふ、3

保姆の歌ふを聴かしむ。

(畫方) 最初は黑板に、後には紙と鉛筆を與へて描かしむ。塗抹時代を利用して、山、海、野原等に色を塗らしめ、或は一面に塗色せしめて、其紙を色々の形に切抜きて與ふ、其他自由に畫かしむるは勿論なり。

(其他の手技手工的遊戯) 1、先づ其遊びに就きての興味を養ふ事、2、各玩具の取扱方を知らしむる事、3、保姆と共同しての製作、4、保姆の模範に従ひての製作、5、好みの物を自由に作りて樂しむ。

滿五年より滿六年迄の子供

(談話) 年少組の豫定の外に、歴史話を加へ、尙言語の練習に際しては保姆は特に誘導に注意する事。

(唱歌) 新しき歌を二ヶ月に三種位づゝの割合にて教ふ。

(畫方) 幼兒の發表機關としては有力なるもの故

之が成績には比較的大なる注意を以て觀察す、
1、自由畫、2、形體を與へて臨寫せしむ、3、記憶畫樣のもの、4、想像畫樣のもの、5、簡易物體の寫生。

(其他の手技手工的遊戯) 1、幼兒自身に凡ての準備をなさしめ、尙製作後の後片付をもなさしむ、2、保姆の命により同一のものも作る、(例へば飛行機と云ひても、單葉、復葉、大小等は任意にして唯飛行機と云ふ點に於てのみ同一ならしむ)、3、保姆の示せる形體に擬して作る(其物の形を觀察して作らしめ、大小には關せず)時と大きさを一定して作らしむる時とあり、4、保姆の描きし繪を見て其を實物として表はさしむる事あり。

右の外年少組には繪合せ、年長組には七巧板等を同一時間に玩ばしむる事もあり、尙積木は全部の形體を混同して玩ばしめ、板並べも同然なり。斯かる場合には何時にても幼兒自身の年齢と同じ數

だけづ、數回にとらしむる規定なり、年長組の終りには字かるたを與へ、おはじきは銀杏を用ひ、主として一の組の女兒によるこぼる。個性觀察には有力なる材料なり。

要するに、年少組は遊び其ものに就きての興味を養ふを目的とし、即ち談話はおとなしく聽く事が好き、唱歌はきまりよく歌ふ事が好き、畫方において静かに繪を見る事が好き、且畫く事も好き等の如し。年長組にありては凡ての遊びに對して眞面目に落着きてなさしむる事、即ち何事にも其物に對しては全力を向けて懸る、一生懸命にするてふ習慣の養成を目的とす。且其等の製作物の材料の撰擇より製作後の後片付まで彼等自身に責任持ちてなさしむ、例へば貼紙の時は入用の紙の色の撰擇、缺、水等凡て自ら調へ來り、其紙の切り方並に貼り方の順序も幼兒自身の思考によりてなさしむ、斯くして出來上りし後は、各玩具は舊の位置に戻し、残りし水の始末もなすてふ如く、

其遊びに就て始終あらしむ。

第二の御問ひに對して

新入園兒の取扱も初めの一ヶ月間は全く自由として朝會の如きも椅子によりて見せしめ、彼等自ら、其興味起りて自分もなさんと思ひし處にて仲間入をなさしむる方其成績よろし、さまで進まぬに無理に仲間入せしめて遊戯等をなさしむる時は生半可通にて加はる故に却つて何時迄も間違生じ易し。

附添の如きもあまり保母が干渉せず附添はしめて置く方が子供も全く安心して早く離る、之に反して中途にて無理に受取らんとせし兒は安心せずして長く離れず、是等を考へ合すれば新入兒には先づ第一に彼等の變りし生活に安心を與ふる事が大切なり。新入園兒の凡てのわづらひは彼等の小さき胸の不安より來る事多し、之は保母の同情、保母の愛より外に慰安の道なし。

第一の問ひに對して

私の園では、幼児の實際生活を基礎として、其の性格の發展、指導を計る方法として、園内に於ける起居、動作や、疊、建具などの、設備も成るべく幼児の日常生活と、密接の關係を保たしめ、園内生活をして、家庭や社會から、孤立させない様にします、即ち園内生活の總てが、善良なる保育の方法として、統一せられる様にしたいと思ひますので、これに關した二三の點を申し上げて、御批正を仰ぎたいと存じます。

一、起 居

幼児の實際生活を善導する第一歩として、家庭生活に接近さす爲め、室内は疊敷として、自發的、相互的の間に一家族の如く、平和と慈愛と權威とを保ち、室内の起居、動作に慣れさす様

に努めて居ります。

二、食 事

晝食の時、各兒に食膳をあてがひ、年長者には、配膳や後方付など、年少者の世話をさせ、友愛の心を養ふと共に、食事の作法に慣れさせます。

三、誕生、節句

保母や園兒の誕生當日には、其組の保母や園兒が一緒に集つて、誕生の歌を歌つて、人生の門出を祝ふと共に、將來の幸福を祈り、又、三五の節句には家庭や社會の行事と連絡して、園内にも雛人形や大將人形を飾り、園兒に其の氣分を味はせ、國民的の心性の陶冶を計る様に努めて居ります。

四、洗 濯

土と水とは、人類の進化に、直接關係の大なる

もので、其の利用の道も頗る多いものであります。従來私の園でも砂場や池の利用を計つて居ますが、本年からは、洗濯場を設けて、年長者には手巾や前掛くらいなもの、洗濯をさせたいと思つて居ます。

五、其の他手技、唱歌など園内生活の全部を成るべく、幼児の實際生活を、基礎として、年長に従ひ、心身の發達に應じ、家庭生活より漸次に學校生活や、社會生活に順應する様にしたいと努めて居ます。

六、擔 任

保母は常に教師として、親として、友達として、幼児に接せねばなりません。特に年少者には、親として、友達として、親しく接する必要が、一層多いと思ひますから、成るべく育児の經驗の多い保母が之を擔任する事にして、年長組の方は、稍々規律的生活に慣れさせ、爲め、比較的年若き元氣な保母が之を擔任する事にして居ます。

第二の問ひに對して

新入園児は百余名も入れますから、保母も幼児の名を直ちに配憶する事は出来ません。入園の際幼児の入るべき部屋の入口に標色を揚げ、其の色と同じ徽章を作り置き、これを與へ胸につけさせます。各擔任保母も受持幼児の知り易き様、同じ徽章を附し、幼児を取扱ひます。部屋の入口には赤なれば赤の大きな裝飾をなし、子供が一見してすぐわかる様に致します。のみならず、帽子かけ、傘棚、下駄箱、玩具に至るまで其方法をとりますから、大勢の割に混雜も少なく、自然幼児も馴れて來ます。附添人の事も園よりは余り干涉致しません。なるべく幼児の自由意志にまかせ、思ふ時期まで附添はしめ、自然に放れるのを待ちます。又中途にて歸宅せんと欲するものはこれを許し、常に幼児をして、家庭にあらしむると同じ感じを味はして居ます。

多數の子供の中には雜多の性質のものが混つて

居ます。入園當時其取扱ひに困難致しました實例をお話し致します。或る七才の男子にて、家庭の都合上少しく後れ、六月一日から入園致しましたが、一見して快活らしき幼兒なるにもかゝらず、毎日下女に伴はれ、會集のすむ頃を見計ひ登園致します。そして廊下の偶に立ち、部屋を見物して居るのみにて、一向入らうとも致しません。いろ／＼と云ひ聞かしても『先生がお部屋に居られると何だか恥しいから入りません』とて、柱をつかまつて廊下に座り込んでしまひます。下女もこの方は家ではまがりと云ふ仇名を以て居られる程で、皆々困つて居ますと、いつか保母に告げました。かくして、じつと様子を考へて居ますと、元より幼稚園は好きなのですから、保母が部屋に居りません時には室内に入り、他の子供と話し合つて居ります。しかし入つて來ますと逃げ出しますので、殆んど困つて居りました。それで、いつまでも捨て、置けませんから、或日其子供の側へいつて、

貼紙の方形臺紙を示しました。これは筋のたくさん入つた美しい紙です、この中へ丸をかけたら、さぞきれいでせうネ。あなたが明日からお部屋へ入つたら、丸を一つ附けて上げませうかと約束しました。其子は翌日いつもより早く登園致しました。ニコ／＼とうれしそうな顔をして居りました。時間が參りますと、何心なく部屋に入りました、保母はすかさず赤鉛筆にて大なる丸を附け與へ賞めてやりました。もし唱歌や遊戯がお友達と一所に出來たら、二重の丸を上げませうと申しますと、子供は好奇心にかられ、小さき聲にて、先日より聞いて居つた蛙のうたを歌ひ始めました。かくして二重の丸が二三日繼いで居りますと、或日其子供が『先生私はあすから一人で來ますからどうか三重の丸を下さい』と頼みました。保母も得たりと大變喜んで、翌日から三重の丸を退出の時に附し與へました。それから性質も追々とよくなり、臺紙に一ぱいになる時分には、余程よき子供にな

つて居りました。只今にては身體智識の方面もだ
ん／＼發達し、中途の入園兒なるにもかゝはらず、

却つて四月以來の入園兒に優つて來ましたのを大
變心うれしく感じて居ります。



第一の問ひに對して

今回フレーベル會編輯部よりの御問に對し、二
三のお答を具體的に少しばかり書くことに致しま
した。

當園にては幼兒定員數を百二十名とし、年齢に
より最幼年一組最年長級二組にして、何れも四十
名づつに編制し、談話は季節と最幼年及最年長の
組別により一定の徳目を定め、一週に一回或は二
回と、其時々際に際し偶發の事項等の談話をもして
居ます。

唱歌及び手技等の材料も季節により適當なるも
のを採り、フレーベル主義及モンテッソーリー主義

香川縣坂出町

坂出幼稚園

等を採用して、幼兒興味の進行に従ひ種々に變更
して居ます。

幼兒入園後半ケ年即ち第二期の中頃十月中旬迄
は、比較的手技の分量を減じ、晴天の時は戸外に
出で、仲善く遊ばしむる方法を採り、其間に團體
生活に慣れしめ、惡癖を善良に導き専ら個別保育
につとめます。

幸當園の背景には鹽龜神社と呼ぶ神社があり、
境内凡そ一町歩、右を見れば當地固有の鹽田あり、
前面には田畑あり、隣は小學校の運動場に接せる
地面を自由に使用する事を得るので、此處にて百
二十名の幼兒は廣々としたる松生の通氣の善き處

にて、蝶の飛ぶを見るとか、松葉、樹木の落葉を捨ては、各自自發的に自然保育を受けます。

運動器械としては鞆、砂場、廻樂機等を備付けてあります。木製馬、鐵砲、シングルベルス等の運動用具も時々與へます。また各組とも保姆の指導のもとに一定の作業を室内保育と同一に成し、食事たりとも敷物を用意して恰も遠足運動會に行きし心持にて、幼兒の樂しさは其顔にあふる、ばかりであります。園舎は保育室二、遊戯室一の狭きが故に廣きこの庭園を利用し、春暖國なるを以て又最も趣味多き自然物に接觸せしむる機會も多々あるを自覺して居ます。

雨天の時は室内にて手技をなしたり、繪本を見たり、靜かに談話をなして一日の保育を終ります。

最も社内即ち露天主義の保育は、第二期の中頃より寒氣も烈しくなりまると同時に室内保育となりますが、年長の組は特に第二期の中頃より保育の時間及び手技に重きを置き、漸次第三期に入り

て少しく嚴に保育し、何によらず幼稚園にて成すべき稽古はもとより、日常己が身につきての出來事、即ち股引及び足袋のコハゼ、靴の紐のとけた等は、必ず自分でなさしむる様にし、最幼年たりとも自分で成さしめ、出來ざれば保姆が手傳すると云ふ有様にて、自發自製の念を教養してゐます。

是も個性や體格の強弱等によりて、實施上適當に扱ひます、最年長の者は第三期の終りにも近くなりますと、就學の準備として規律正しく保育致して居ます。

寒さの間、即ち十一月中旬頃より翌年三月の保育の終りまで、最も其年の寒さにもよつて多少の違ひはございますが、幼兒のお辨當を蒸して與へます。

其お辨當蒸温器の構造は直徑一尺六寸五分高さ七寸五分のセイロに類したる圓形なるものを作り幼兒のアルミ製のお辨當箱を二重ねになせば恰度

一組のものが、ちやんと入つてしまひます。お辨當の相違ひをさけるために蓋の上にそれ／＼姓名を記してあります。三組ですから三個を造り、其暖さは恰度よい加減のものが出来た。それを各組へ運びます。

幼児がお辨當を開けば、ポウーツと湯氣が立ち、さながら茶碗蒸のその如く。幼児も楽しく食します。このお辨當蒸温器の出来ざる以前は、あとから持参せしものがダン／＼ありましたが、これが出来て以來は自分で朝より持ち来る様になりました。家庭の大半は商家であります故、多忙なる家庭の助ともなります。

第二の問ひに對して

當園にては毎年四月に九十名内外、既に本年の如きも八十名の入園者があります。申す迄もなく第一幼稚園の教育にさまたげとなるものは、付添人の付添でござります。如何なる幼児も自分の身寄のものが居ると、直ちに依頼心を起しますから、

當園にては創立以來付添人を許さぬ方針を採つて居ります。現今にては。其主義を家庭に於て了解せるものと見へ、入園前より云ひ聞かせあるものか、幼児自身にも承知し居るものとか、付添人を放す事の容易なる事は、かゝる所より起困するものと思ひます。入園の日より最初一週間位は、唯子供を室内に入れ思ふが儘に席を與へ、話をして見たり、名前を聞いて見たり、時には積木を貸したり、玩具を與へたり、繪本を見せて遊ばしめ、また子供の知れる唱歌を歌はしめ等して、兎角幼稚園になれしむる事につとめて居ります。當分の内は席も定めず、成る可く家庭に近き方法を採り、保育の時間をも定めず、談話もしたり、唱歌も歌つたり、蝶の飛ぶを見ては摺紙で蝶々をたゝんだり、随意に楽しく新入幼児をして、飽かせぬ方法を採つて居ります。何様新入幼児は家庭生活が俄に團體生活に變更し、其狀況の急變に依るを以て、又間食の出来ざるにより、新入幼児の大半は幼稚

園なるものを嫌ふ様になりますから、當園にては家庭に通じ、御辨當を多量に持參せしめ、晝食を少々早くすることに依り、體育上のため又間食の口さみしさを減ずる事を得る様にして居ります。而して、時々まゝごと遊びを利用して、菓子を

與へる事もあります。これも幼兒の通園を喜ぶ助となりませう。

特に入園當時は幼兒の個性別に依つてソレソレ注意して扱ふことが大切と信じます。

東京 誠之小學校附屬幼稚園

第一

一、最幼年の組は其取扱上可成家庭と大差なからしめ度之を呼ぶにも可成姓を用ひず名を呼ぶ様(是は入園の際保護者に尋ね置候)致候

二、幼兒相互の親みによる快樂即朋友の味を知らしむる様

三、幼稚園の趣味を知らしむる様

四、母と迄は行かずとも他人として保姆なる者は之に進ずる慕はしき者なるを知らしむる様

幼年組に於ては以上の如き事に専ら力を用ひ方便として之に遊戲手技の類を加味致し候へ共其成績に付要求の程度を極めて低く致居候

躰方に於ては柔順と云ふ事は早くより取掛り置度考居候へ其他は徐々に致し居候

中年の組は凡て要求の程度を少し高め時に命令的に仕事をなさしめ服従の練習を試み候事も有之候

最長年の組は最早幼稚園の生活に馴れ就學期も

近付ける幼児のみ故誘導よりも自發的の事を好み
凡ての嗜好も男女の相違著しく相成候故昨今之を
男組女組の二つに分ち(尤幼児數百名を越え候故之も二分する原因と相成居候)談話
遊戯の内容を異に致し居候

談話(男) お伽話よりも勇壯なる歴史的の話
(女) 假作物語或はお伽話の類

遊戯(男) 表情的のものよりも體操的の物或は競争
(女) 表情的のもの繩飛の類

此外他日學校教育を受くるに必要な習慣（注
意、勤勉、規律、獨立等）を確實に附け置く事
力を用ひ居候故に擔任保姆も可成快闊なる意識の
明瞭なるものにて且此等の目的を達せん爲其方法
等につきて相當の工夫の才智あるものを以て之に
充て居候

實施上の區別

幼年組は各兒個々別々の習慣性質を以て集り居
る事故略之が統一も致し度保育實施上極端なる個
人保育を致し候故同一の行爲も甲兒には之を禁じ
乙兒には之を獎勵致す等矛盾せる事も少なからず
候

個性觀察簿も此組に限り入園當時の狀況記入欄
を設け保姆二名にて擔任觀察致し候

中年より年長組の幼兒は凡ての習慣も稍統一せ
られ候事として追々一齊保育を致し或特殊の兒童を
除くの外は、或一定の規律により實施致し居候昨
今の如き保育終了期に近ける年長組に至れば又少
し方法を更へ可成自治的に進ましめん爲幼兒の希
望を採用し何事も幼兒より働きかけしむる様仕向
け居候

第二

新入園兒に就きての經驗として別に申上ぐる程の
事これなく候へ共年々歳々是に苦しめられ候結果
之は入園許可の方法に工夫を致すに如かずと相考
へ左記の方法を用ひ候處さしもの難關も漸く樂々
と打越えらるゝ様相成候然し今尙し不足の點も有
之現今考案中に候

入園許可の方法

一、四月入園許可すべき幼兒を一月頃より一週三

名乃至五名入園せしめ此幼兒の成績（幼稚園及

保母に馴染む）良好なれば或は一週間を出ずして一二名を入るる事あるも、先一週間内に馴れしむる様取計らふ事

一、四月に入りては保育終了生を出したる後の事なれば約百名の欠員を生じ居る故斯様な優長なる事も致し難く少くも一週間十名を入園せしめ時に十五名も入るゝ事あれども此時に常任の保母二名の外に最年長組擔任の保母（例年四五の二ヶかす故に擔任保母一名となる）及二三之組擔任保母（四月は三之組は幼兒保母一名になし一名の手を明ける事とす）と都合四名附添ひ候故十名入園致したりとて保母一人二名強の新入兒を一週間内に手なづけ候へは宜しき次第と相成大抵豫定通りに運び参り候六月頃迄には缺員を満し得て幼兒も比較的早く幼稚園に親しみ候故茲に於て幼兒の撰り分けをはしめ三之組に入るべきものと四之組に止むべきものとを定め（入園の初は年幼年組に入れ）是にて漸く落着致し候事と相成候

保護者に希望

入園最初の日に家庭に希望する事を集めたる小冊子を分ち大略左の件につき懇談致し候

一、幼兒の成績如何は大部分家庭の助力によるものなれば母親は幼兒の爲多大の覺悟を以て幼稚園と提携し保育の目的を達せられんこと

二、故に幼稚園の方針及擔任保母の人となりを知られたき事

三、幼兒保育に關する一切の事は善惡に關らず腹藏なく御相談ありたき事

四、附添人は經驗上幼兒の爲にならざる事多く彼依頼心の増長するは其原因是にあるを以て充分人物を選択せられ度且幼稚園では途中の送迎に止め幼兒の側に附添居ることは入園の初一週間位とし或特別の事情あるものゝ外は一切謝絶の事

細事は之を略し大略御下問に對し御答右の如くに御座候が新入園兒中には非常なる難物二三名は

必らず有之其取扱方法は實に千差萬別年々新らしき問題を興へられ臨機應變の措置を致居候事に御

座候

(一) の 答

當園は満四歳より入園せしむる事になつて居りますので、二箇年保育で御座います。現在之を年齢別に分けて、一組の定員參拾六名宛にして居ります。

當園の方針としては年少の組は之を二組にわけ一組貳拾名位づゝとして、二人の保姆が擔任する事とし、上の組になつてから合併して一組にした希望であります。種々の都合上未だ實施せられて居りません。要するに年少の組は人數を少くして、充分に個性を發揮せしめ、行き届いた世話をなし得る様にありたい考です。年長の組でも個

東京府女子師範學校附屬幼稚園

人々に重きを置くは勿論であります。が、小學校に進む頃となれば、共同作業にも幾分慣れさせて置きたいと思ひます。

幼児の年齢が幼なければ幼ない程、一樣に取扱ひ難いと思ひますので、年少の組には自由を多くとらしむる様にして居ります。随つて室内保育の時間なども年少の組は年長の組に比し短くしてあります。

なほ躰方についても保育の事項についても、豫め大體の細目を極めて置いて、それにより適當にいたして居ります。この細目も基礎的練習を重んじて簡單なるものより順次系統たてゝ編製いたし

て居ります。その大要につき、躰方要目は「婦人と子ども」第拾六卷第一號に、手技配當表の大體は全國保育者大會の報告書に掲載してありますから御參考を願ひます。

(二) の 答

毎年四月になると參拾六名の新入園児が御座います。幼兒を園内生活に慣れしむることについて豫め細目をたて、置き、園内の案内及備付品に對しての心得、園内の交際、園内のきまり、自己の身始末等について、機を見て幼兒に知らしむる様にいたして居ります。なほ辨當を携帶する迄の以前に特別練習器により挟み方の練習をいたして居ります。なほ四月に始めて入園する以前に新入園児の父兄の方に來て頂いて其躰方の方針や本人の氣質、體質、嗜好等につきうかがつて置きます。保姆は主として氣質嗜好等につきて幾組かにわけて席をつくり置き、それ／＼嗜好の遊び道具を備へて、すこしも早く附添の手を離す様にとめて

居ります。

大體右の様にいたす様になつてから、前よりも早く園にも慣れお友達も出来る様になりましたがいつも一二名むつかしい幼兒があつて困ります。左に一二むつかしかつた幼兒についての經驗を記すことにいたします。

○〇といふ幼兒は入園調査の時にはなか／＼はつきりと答をいたし、いかにも元氣な兒らしい御座いました。ところが四月に登園して來てからは實に案外でした。附添の手をなか／＼はなれません。他の幼兒がもう附添の手をはなれて、すん／＼遊んで居るのに附添の側にばかり居ります。そのくせ他の幼兒が面白さうに遊戯などして居りますと、チヨイ／＼いたづらなどいたします。或時はやさしく言ひきかせ或る時はつよくしてみましたがき／＼めがありません。家庭でも種々心配してよく言ひきかせて登園させるのですが、すこしも効がありません。或時その

母親を呼び種々相談をいたしました。○○には窓の所で見せて置きました。翌日保母が登園して見ると○○はいかにもこゝした様子で砂いぢりをしてゐましたが、側には附添の影が見えませんが、保母は「○○さんけふはえらいですわね」と申しましたらほゝゑんでゐました。

其日また母親が來られての話に「昨日家へ歸りますと『お母さん先生と何のお話をしたの』と聞きますから『○○やほんとに困つた事が出来ました。あんまりお附添の手を離れぬ兒は幼稚園に置かないと言はれましたよ』と申しましたら、ちつと考へてゐましたが『お母さん僕いきますから先生にさういつて下さい。幼稚園嫌いでないんだけどもきまりがわるいんだから、僕兄さんと一緒にさういつていきます』と申します。今日はどうかと心配して居りましたら朝早く起きて小学校の兄と一緒に登園いたしました」との事その日から○○は附添の手をはなれて一人で登園する様になりました。

△△といふ幼兒はやはり附添をはなしませんい

ちゝく検べて見ると其幼兒の附添の乳母は△△の赤兒の時から育てたので可愛くて々々たまらず一寸も手離すことが出来ないもので、園にも一緒にまゐるのだといふ事がわかりました。それから家庭にお話して乳母のかはりに他の附添と一緒に登園せしむる様にいたしましたら、直に附添の手をはなれて遊ぶ様になりました。××は年齢も一番幼く内氣な幼兒でやはり附添の手をはなしません。丁度園に兔を飼つて置いた時なので其幼兒が園に來るといつも兔の所へ連れていつて兔に餌をやらせました。しまひには家庭から兔の餌を持つて毎日來ました。其時には保母も一緒に兔の所にいつてお互に親しむ様にしました。其中に他の幼兒が大分慣れて來たので植物園に連れて行かうといふ事になつたので其兒に「お附添の手を離れない兒は一緒に行かれません」と申しました。しかし其時は保母がまけてしまつて××は附添同道で行きましたが其後間もなく、之が動機となつて附添の手を離れました。